

2019年度 佐久長聖高等学校 自己評価

学校教育目標	中・長期的目標	今年度の重点目標
1. 礼節を重んじ、忍耐強く、誠実な人材の育成を図る。 2. 一人ひとりの個性を尊重し、授業・クラブ活動・館（寮）生活を通して豊かな教養・感性・心身の健康を身につける。	1. 積極的、自主的な態度を養う。 2. 一人ひとりが文武両道を実現できる環境を整える。 3. 校外から理解・支援される教育活動を展開する。 4. 世界で活躍できる人材が育つ環境を整える。	1. 魅力ある授業が生徒に提供できるための教科指導の研鑽に努める。 2. 生徒の進路実現に向けて、進路指導体制の発展に努める。 3. 生徒との前向きな対話のある生活指導・学級運営を行う。 4. 心身ともに健康で明るい学校生活をが送れるよう、生徒の人権を尊重し安心安全な学校づくりを進める。 5. 学校の特徴をアピールできるように積極的に情報発信を行う。

評価・・・A：十分 B：概ね十分 C：やや不十分 D：不十分

評価項目	評価の観点	評価	具体的取組状況・成果	課題・問題点
1	学習指導			
	大学入試改革に対応した具体的な取り組みができたか。	B	大学入試共通テストの記述問題導入に向けて授業、演習問題、考査作問など工夫をした。／強化部員も含め積極的に英語外部試験受験を行った。／共通テストの英語の配点変化に対してALT./インターン生を含めリスニング対応をした。	大学入試改革に対する情報が不透明な部分に対しさらに情報収集・研究をする必要がある。／総合型入試への対応をさらに進めなくてはならない。／実際の入試改革の内容に対する理解を深める必要がある。
	アクティブラーニング（AL）・ICT機器活用等の授業改善をしたか。	C	グループごとに課題設定から計画・実行・発表・生徒同士の評価を行い失敗のとらえ方が前向きになった。／教科書ではわかりづらい内容もPCを利用して説明した。／平日・休日・長期休業中に課題をパソコンから配信し提出させた。	グループディスカッションの質を上げてもっと濃い内容の発表をさせる必要がある。／PC教材の作成に時間がとられすぎてしまう。／教師・クラスによってICT利用に差がある。／AL・ICTともに効率的な利用場面を教科ごとに設定する
中高一貫教育の特性を生かした指導や教育課程の見直しを行ったか。	B	高校内容の先取りができるため高3の入試対策に時間が取れた。／中高一貫だからこそできるスパイラルを意識したシラバスを作成、実行している。／高校生対象の医学科ガイダンスなど中3生にも呼び掛けた。／一貫生は中学時代か	中高の連携が不十分で中学での指導状況などがわかりにくい。／高校勤務経験のない中学の先生は出口状況がわかりにくいので中学修了時に求められる学力が実感しづらい。／学年による学力差が大きい。／高3の演習が長すぎるとマ	
2	進路指導			
	計画的・戦略的に組織的な進路指導ができたか。	B	3年生の推薦指導についてなどで学年を超えた連携がとれた。／2年の春休みから小論文、面接の練習の予備校作りを行った。／夏期休業中にオープンキャンパスへの参加を促し写真付きのレポート提出をさせた／三者懇談で今後1年のClassiやメールを駆使して情報共有に努めた。／小さなことでもなるべく保護者にコンタクトを取るよう意識した。／入試のプレッシャーを抱える生徒に	模試データの分析・共有・問題点を指摘しそのデータをもとに授業改善をすることが必要。／ホームルームでの指導力向上が必要。／土曜日の使い方などもっと計画性が求められる。／クラスによる温度差が出ないようにさらに進路Classiやオクレンジャーを閲覧しない保護者への働きかけが必要。／大学入試
	保護者と連携した個に応じた進路指導ができたか。	B	保護者にコンタクトを取るよう意識した。／入試のプレッシャーを抱える生徒に保護者・担任・推薦入試指導担当者の三者で連携をとってサポートし合格でき	制度が変わっていくのでその辺りの情報提供をしっかりと行う必要がある。／休日や夜遅くなど勤務時間外に面談を希望するご家庭もあるのでその対応。／
生徒の自己啓発につながるキャリア教育であったか。	B	希望進路が似ている生徒同士の話し合いや問題解決の発表等で生徒個人だけでは気づかなかったような問題点を知ることができた。／様々なキャリア教育を行う中で生徒がやってみたい事や自分のキャラクターなどに気付いている印象	土曜の探究活動で行う場合強化部は公欠が多く参加できない生徒がいる。／将来の夢や進路目標があいまいな生徒に対する工夫が必要。／平日に行うと授業がつぶれてしまう。／何か活動した後の記録（eポートフォリオなど）をもっ	
3	生徒指導			
	いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	B	ホームルーム・授業・部活動などあらゆる場面で気にかけてお互いに不快になる言動にはその場で指導をした。／早期発見、早期対応をモットーに情報収集や巡回などに力を入れ生徒同士のトラブルについても初期段階で対応できた。	生徒が抱えるトラブルを早く察知する必要がある。／SNSなどでのいじめやからかいはなかなか気づけないし、小さなことを見逃している可能性がある。／何か対応が必要なときに一部の教員ではなく学校全体で取り組んでいかな
	体罰や暴言のない安心な学校づくりができたか。	B	10年後には立派な成人になることを念頭に生徒には敬意を払って接するようになっている。／生徒には男女問わず「さん」付けて呼ぶことで、互いを大人として扱う意識を持たせた。／心優しい生徒を育てる上で自分自身の言動には注意	部活動において感情的になりすぎる場面があった。客観的に物事を伝えたり適切な助言が送れるよう心掛けたい。／時には生徒に厳しい意見を言うことも必要でそれを暴言ととられないためには普段からの信頼関係を築いておく必要が
校外での安全・トラブル（SNS含む）に注意できているか。	B	休憩時間は各教室を頻繁に見回るようにしている。／ロッカーのカギかけなどの注意は折に触れてしている。／情報の授業や進路講話などで社会の現状を伝えると同時にSNSの怖さを伝えている。／毎日生徒たちと一緒に昼食を摂るこ	SNSに関しては水面下のこともあり忘れたころに絶えず言い聞かせなければならない。／SNSは目に見えない部分が把握しづらい。／特定の生徒のSNS利用時間の長さをどうするか。／交通機関乗車マナー、歩きスマホ、自転車マ	
4	保護者連携 地域連携			
	ホームページ・Classiなどで積極的に学校情報の発信ができたか。	B	Classiで学級通信、日々の様子、奨学金情報、行事の報告分や写真、受験情報、考査結果、通知表などの情報発信ができた。／海外研修やイベントなどの様子をホームページに掲載した。／相手が初めて読んでも分かるような文章	ホームページの内容や更新頻度などもっと充実させる必要がある。／保護者が求めているものをきちんと把握して発信する必要がある。／学年間やクラス間の差をなくす必要がある。／保護者が情報を見ているのか確認ができない。／
	保護者や外部からの声に対してきちんと対応・返答できたか。	B	保護者と細かいやり取りをしてスピード感をもって誠実に対応できた。／自分でできるものは対応しそうでないものは関係各所に報告して協力して対応できた。／意見を受け止め互いに納得できる結果になるまで考えた。／	長期休業明けの保護者所見に学校からのレスポンスがないと不満の声がある。／声を上げない保護者の要望には対応できていない。／保護者の要望、生徒の要望、学校としての考えのバランスが難しい。／学年を超えての情報共有が
説明会・オープンスクール（OS）・学校訪問など積極的な広報活動ができたか。	B	OSのアンケートでは本校生徒・教師の挨拶・対応が素晴らしかったという声が多かった。／OSに参加した生徒から感謝の手紙が授業者に届いた。／文化祭ではおもてなしの気持ちを生徒にも意識させて来校者に対応した。	生徒募集は私学の生命線なので全職員で取り組むべき。／OSの強化部以外の参加者数をもっと増やさなくてはいけない。／外部の方の厳しい意見にも真摯に耳を傾けなければいけない。／	